

seed

vol.5

ひょうご地域創生通信
2020.4

2020～2024
第二期 兵庫県地域創生戦略、始動



私たちの兵庫には、“未来への種”がいっぱい。

(2020～2024)

第二期兵庫県地域創生戦略とは？

2060年の兵庫の姿を見据えて取り組んできた第一期地域創生戦略(2015～2019)の評価・検証などを踏まえ、兵庫県は2020年度から5年間の目標および取り組むべき施策を定めた第二期「兵庫県地域創生戦略(2020～2024)」を策定しました。ここには、私たちの兵庫の“未来への種”がありそうです。



兵庫県地域創生戦略(2020～2024)の全体像

地域創生は、人口が減少しても地域の活力を維持し、そこで暮らす人々が将来への希望を持てる地域を実現することです。

第二期戦略では、“五国※”の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしができる地域をつくるという基本理念のもと、地域の元気づくりを第一に、4つの戦略目標の実現を目指します。また、重点課題に対応した、事業分野を超えた横断的な4つの対策と、行政圏域を超えた広域的な8つの地域プロジェクト・モデルを進め、分野軸と地域軸の双方向で、相乗的な施策を展開していきます。 ※五国…兵庫県を構成する旧五国(摂津・播磨・但馬・丹波・淡路)

基本理念

五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしが実現できる地域へ

対策
(4つの戦略目標)

1 地域の元気づくり

2 社会増対策

3 自然増対策
－子ども・子育て対策－

4 自然増対策
－健康長寿対策－

展開方法

重要課題に対しては対応施策を分野横断的に展開

若者対策

女性対策

外国人材対策

関係人口対策

8つの地域プロジェクト・モデル

地域別パッケージ型施策による地域毎の強みや課題に対応

分野軸と地域軸の双方向で、相乗的な施策展開

人口が減少しても、地域が活力をもって自立し、県民が将来への希望を持てる兵庫

▶ 地域創生戦略本編はこちら



第一期戦略に取り組む中で見えてきたことは？

3つの課題

若年層の流出拡大

- ・20歳代前半で県外に出て行く人の増加(H26年度比1.5倍)
- ・県内大学生の県内就職率が3割弱のまま推移

出生数減少加速

- ・H28年度から出生数の減少幅が拡大
- ・主要因
(50歳時未婚率の上昇、20~30歳代の女性人口の減少)

地域間格差拡大

- ・都市圏と多自然地域※で人口の偏りが顕在化
- ・戸数50以下で高齢化率が40%を超える小規模集落が10年間で倍増

※多自然地域…都市計画法で定める「市街化区域」や、緑豊かな地域環境の形成に関する条例で定める「まちの区域」等を除いた地域

明るい兆し

県内就業意識向上

県外からのU/Iターン希望増加

農林水産業輸出拡大

暮らしたいまちイメージ向上

外国人県民の増加



4つの戦略目標

1 地域の元気づくり

ひと・まち・産業 元気プログラム

重点目標1

幅広い産業が元気な兵庫をつくる

- 兵庫の強みを活かした産業競争力の強化
- 地域産業の振興
- 企業立地・投資の促進
- 起業・創業の適地ひょうごの実現
- 農林水産業の基幹産業化の推進



重点目標2

内外との交流が活力を生む兵庫をつくる

- 地域資源を活かした交流人口の拡大
- 定住人口・関係人口の創出・拡大
- 交流を支える交通基盤の充実



重点目標3

豊かな文化が息づき、安全安心でにぎわいあふれる兵庫をつくる

- 芸術文化が身近に感じられる地域づくり
- にぎわいが感じられるまちづくりの推進
- 安全安心に暮らせるまちづくり
- 防災・減災対策の総合的推進
- 次代を担う人材を育成する教育力の強化
- 全員活躍社会の構築
- 多文化共生社会の実現
- 地域生活を維持する革新的技術の普及促進
- 豊かな環境の保全と創造



達成度を測る指標

- ①国を上回る1人当たりの県内総生産(GDP)の伸びを維持する ②「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」と思う人の割合が前年度を上回る

2 社会増対策

社会減ゼロプログラム

重点目標4

自分らしく働ける兵庫をつくる

- 地元就業の促進
- U/Iターンの促進
- 外国人材の活躍推進

達成度を測る指標

- ①2024年までに日本人社会減ゼロ
②20歳代前半の日本人若者の県内定着率93%
③5年間で25,000人の外国人の増加

3 自然増対策

— 子ども・子育て対策 —

婚姻数拡大プログラム

重点目標5

結婚から子育てまで希望がかなう兵庫をつくる

- 結婚のきっかけづくり
- 安心して子どもを産み育てられる環境の整備
- 子育て応援社会の形成

達成度を測る指標

- ①2024年まで合計特殊出生率1.41を維持
②「結婚したい」という希望をかなえ、2024年に婚姻数27,000件

4 自然増対策

— 健康長寿対策 —

健康寿命延伸プログラム

重点目標6

生涯元気に活躍できる兵庫をつくる

- 健康づくりの推進
- 高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備
- 元気高齢者の社会参加の促進

達成度を測る指標

- ①平均寿命と健康寿命の差を縮める
②運動を継続している人の割合を高める(目標75%)



行政圏を超え、地域の強みを活かし、地域ごとの課題に対応する

8つの地域プロジェクト・モデル

第一期戦略では、地域創生の芽とも言える動きが生まれました。地域の個性や強みを活かした8つの地域プロジェクト・モデルは、地域の未来づくりとも言える、広域的かつ先進的なプロジェクトです。

1 阪神・淡路大交流プロジェクト



今後のインバウンドの増加を見据え、阪神・淡路ベイエリアを客・交流エリアとして発展させる。

→6-7ページへ

2 地場産業を活かした若者女性集積プロジェクト



新ビジネスに挑戦する、若いデザイナーやクリエイター等の人材育成システムを確立する。

→7ページへ

3 次世代産業を核とした地域振興プロジェクト



科学技術基盤を中核とした理系人材が集まるまちづくりを進める。

→8ページへ

4 播磨歴史回廊プロジェクト



点在する歴史・文化資源を結ぶ観光ルートの設定などを通じて、滞在型・体験型ツーリズムを推進する。

→9ページへ

5 リゾート・産業・文化を活かす「但馬ワークプレイス・プロジェクト」



リモートワークやワーケーションなど多様な働き方モデルを展開し、滞在人口の拡大と新たな事業創造に取り組む。

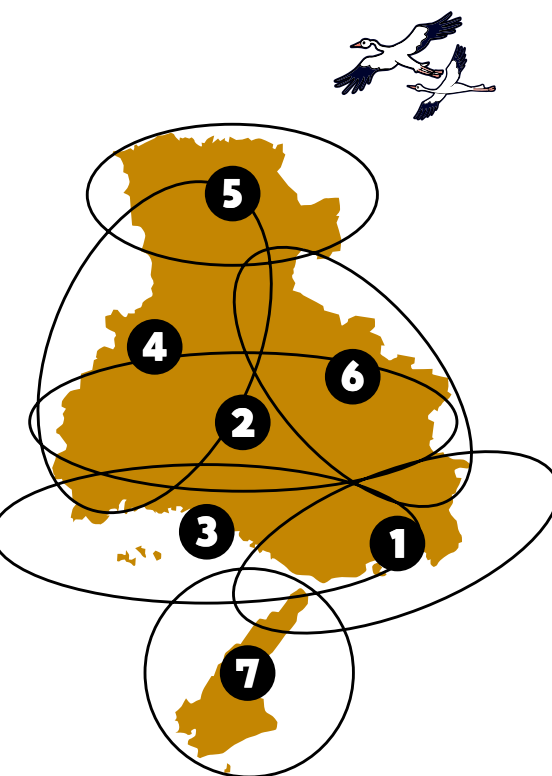
→9ページへ

6 二地域居住・都市農村交流推進プロジェクト



田園回帰志向の都市住民にとって魅力的な丹波の強みを活かし、交流・関係人口の創出・拡大を図る。

→9ページへ



※ 8 は県内に点在する各多自然地域で展開

7 みけつくに 令和の“御食国”プロジェクト



食の宝庫・淡路島で、食を活かした地域資源を組み合わせたツーリズムを推進し、滞在型観光を進める。

→10ページへ

8 多自然地域一日生活圈維持プロジェクト



コンビニエンスストアなど日常的に人が集まる拠点を整備して、地域コミュニティの再構築を図る。

→10ページへ





重点課題に対し、各事業分野に点在する行政サービスを集約し、

分野横断的に展開する4つの対策

第一期戦略で明確になった4つの課題に重点的に対応するため、分野ごとの施策展開に加え、分野横断的に課題への対策をとりまとめ、重層的に施策を展開します。

若者就業対策

「働く場づくり」「住みたい・暮らしたいまちづくり」「ふるさととのつながりの維持」を通じて若者の定着・還流を図る。

分野横断的に推進

働く	〇	起業	雇用	〇
ふるさとに戻る	地元愛着	U/Iターン	〇	〇
暮らす	まちづくり	〇	住宅確保	〇

若者の定着・還流

→11・12ページへ

女性定着・若者結婚対策

商業機能の集積や、結婚・子育ての願いがかなう「住みたい」と思えるまちづくりを進めるとともに、ライフステージに応じた柔軟な働き方ができる兵庫を目指す。

分野横断的に推進

就業促進	ロールモデル	〇	働き方	〇
住みたくなるまち	医療教育	都市機能	芸術文化	〇
結婚・子育て	〇	出会い支援	育児環境	〇

女性の定着・還流

→13ページへ

外国人材活用対策

外国・外資系企業や外国人材を受け入れ、兵庫で働き、地域で暮らす外国人材の活躍の場を広げる。

分野横断的に推進

働く	留学生就職	〇	〇	〇
受け入れる	人材不足	〇	〇	住宅
暮らす	〇	生活支援	言語教育	〇

外国人材の活躍・外資系企業の集積

→14ページへ

交流・移住対策

国内外の地域外人口が①兵庫を「楽しむ」②兵庫と「つながる」③兵庫に「移住する」の3つの観点から交流・関係人口づくりと移住対策を推進する。

分野横断的に推進

情報発信	〇	魅力広報	e-県民	〇
地域に触れる	農業体験	お試しツアー	〇	〇
暮らす	〇	空き家	地域おこし	〇

関係人口の創出

→15ページへ



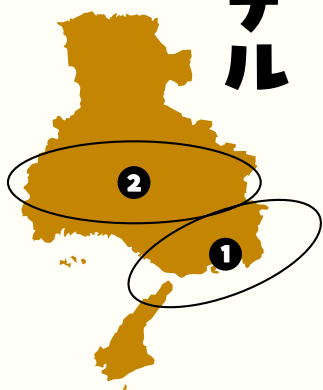
さあ、ページをめくって多様な“未来への種”を見ていきましょう

地域の元気を創出・拡大

8つの地域

プロジェクト・

モデル



加藤恵正さん

兵庫県立大学大学院教授(減災復興政策研究科)



かつて阪神工業地帯として栄えたベイエリアを、新たな集客・交流エリアとして発展させていこうという「阪神・淡路大交流プロジェクト」。発想の原点に何があるのか、実行に向けてどんなことが必要かなどを、プロジェクトに関わっている加藤恵正さん(兵庫県立大学大学院教授<減災復興政策研究科>)、上村敏之さん(関西学院大学学長補佐・経済学部教授)、定藤博子さん(阪南大学経済学部准教授)が話し合いました。

ベイエリアの強みと魅力

加藤 このプロジェクトは、旧来の産業空間から広義の集客を核とするビジネス・エンターテインメント空間への転換を目指すものです。ベイエリアが蓄積・内包するポテンシャルを最大限顕在化していくことが重要です。今、技術的・社会的な転換点を迎えて、この地域を再び生き返らせる計画が求められています。経済的には集客交流が核心部でしょうが、その計画に、日本経済の現状を突破する実験地域としての役割を組み込めれば。その上で、計画を実行していく仕組みをつくるのです。関西圏は文化と自然に富んだエリアで、東京圏にはない魅力を後背地に持ち、3つの空港と港湾もある。より密度濃く連動し、もともと持つ力をより顕在化させる方向でベイエリアをつくり直せ、と思っています。

上村 プロジェクトに淡路を含んでいることが重要です。一般的にベイエリアは通勤・通学の人たちが住むイメージですが、その生活の繰返しはしんどい。だから、淡路には癒やしと食を求めたい。最近では社内にテントを張ったりしてストレス軽減を図る会社が増えている時代。衣食住と癒やしがバランスよくそろうベイエリアには大きな魅力があります。

定藤 阪神間と淡路島をつなげると、多様なストーリーが紡げます。淡路島はオノコロの島、食材も豊か。大阪・淀川に砂州がで

きるところから国生み神話が生まれたという研究者もいます。さらに明治以降の工業化では、東京に劣らぬ日本最先端の発展を遂げてきました。これまで阪神間モダニズム文化を担ってきた年配の方々の経験や、大きな被害を受けた25年前の阪神・淡路大震災からいかに立ち直ってきたか……。それらの要素からどんなストーリーを紡げば新たな魅力となるのか。大学も多く、若い方々もたくさんいらっしゃるの、ぜひ一緒に見つけていきたいと思います。



どのように姿を描き、実現していくか

上村 少し前に我々は船に乗ってベイエリアを視察しましたね。海から見ると各拠点がとても近かった。例えば関西3空港、神戸の医療産業都市、USJ、これから大阪・関西万博がある舞洲、点在する拠点をどう結ぶか考える時、まず陸路を考えてしまいますが、ベイエリアは海でつながっています。今後、AI技術などを使った自動運航船などで、どうやって海の道を創っていくか。society3.0に留まっているベイエリアを、4.0を経ないで政府が目指す5.0に飛躍させる発想の転換が求められます。「人間は構想したものはすべて実現することができ

① 阪神・淡路大交流プロジェクト

専門家に
ご意見を伺いました



上村敏之さん

関西学院大学学長補佐・経済学部教授



定藤博子さん

阪南大学経済学部准教授



播州織・皮革などファッション分野の地場産業が集まる播磨地域で、生産・流通・観光の新しい人の流れをつくります。目指すのは、世界一の絹織物産地・リゾート地で有名なイタリア北部のコモ。ミラノの北にあるこのまちでは約2400の事業所が撚糸織布・染色・生産加工などの機能を分担し、ヨーロッパのシルク製品の8割を生み出しています。事業所を束ねるコンバータ（産元商社）は、マーケティングから後継者育成、一流ブランドからの受注窓口を一括して担い、オーダーごとにデザイン・生産計画を作成。必要な事業所を結んで仕上げています。

播州織の産地でも13の産元商社が東京・大阪から受注していますが、課題はブランド力。そこで西脇市は首都圏の服飾学校卒業生ら22人を招き入れ、播州織デザイナーの卵として養成。今後は最終製品化に向けた縫製工場を開設する予定です。

2 地場産業を活かした 若者女性集積プロジェクト



る」といわれます。だからまず、どれだけ構想を具体化できるかが勝負になりますね。

定藤 大阪・関西万博の会場予想図は、細胞が連関しあうようなイメージ。日本館が中心ではなく、各ゾーンに各パビリオン、拠点を配置し、それぞれにつながっています。モザイク模様のような未来社会の中で多様性をどう生かすのか。中心を強く主張するのではなく、兵庫県の様々なコンテンツを万博の何とどのようにつなげるのかを考えると、万博の効果を広く波及、長く持続させる方法が見つかると思います。

上村 ベイエリアは複数の自治体にまたがるので、誰がリーダーシップを取るのかが非常に難しい。何らかの形で民間企業を巻き込んだ再開発のための組織体が必要になるでしょう。個々のプロジェクトは、地方自治体や民間企業が協力し、一つひとつやっていく。おそらくたくさん失敗するでしょうが、100のトライがあって一つ成功事例があればよいイメージで。民間も参入し、大胆な規制緩和をして、既得権は打破する。法律・条例を改正して、実証実験の場にする事で新しいベイエリアをつくっていかないと。

ベイを「動かす」旗艦プロジェクトを

加藤 賛成です。一つの同質な圏域であるにもかかわらず、バラバラに分断されていたことがベイエリアの発展を大きく阻害



してきました。複数の行政区域にまたがる連担地域の整備については世界で既に経験があります。古くは、1980年代のドイツで、17の自治体が絡んだ800平方キロに及ぶルール工業地域でのIBAエムシャーパークという実験プロジェクトがあります。ここでは、少数の専門家チームが再整備計画の策定やプロジェクトの認定など、実質的に圏域全体を動かしていたのです。こうしたIBAの試みは、ベイ再生の仕組みを考えるうえでも示唆的です。まず、ベイエリアを一体的にみる司令塔が必要です。第二に、ベイエリアを特区として、エンタープライズ・ゾーンやBID※などを用いて、ベイを「動かす」ことが必要でしょう。いずれかの地区で大胆な提案を結集したフラッグ・シップ・プロジェクトを起動してはどうでしょうか。

上村 計画づくり段階は少人数で、プロジェクト全体をまとめる一つの大きな組織と、機動的に動ける小さな組織がある。二つの組織でPDCAを回していくのがいいのではないのでしょうか。

加藤 言い尽くされていますが、経済界、

行政、学会など様々な人が一堂に会して自由闊達に議論できるプラットフォームをつくるのが重要なんです。

上村 その上で、いかにいい未来をベイエリアに込めるかですね。突拍子もない計画が出てくると拒絶されますから、定藤先生が話された文化や歴史を背負いつつ、このまちらしい発展とはいかにあるべきかを考えたいですね。

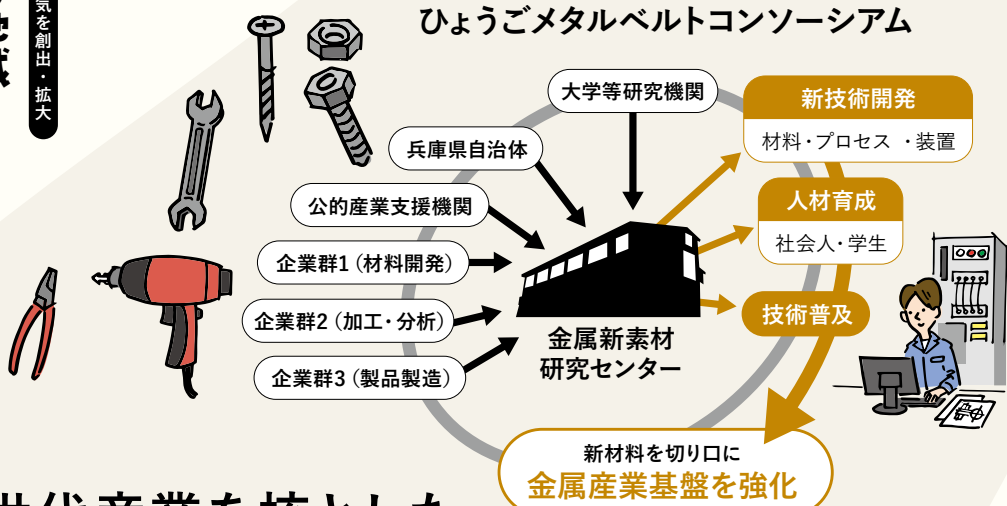
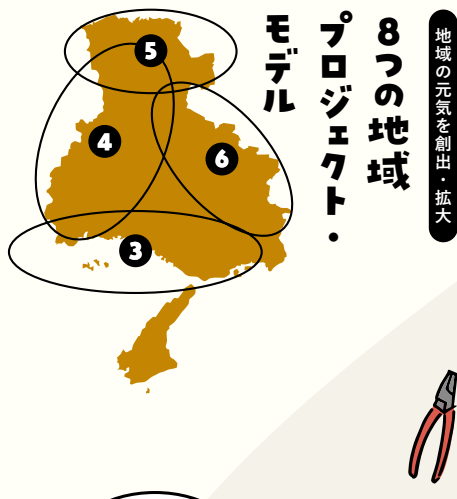
遊びや楽しみを仕事に取り入れる

定藤 仕事は一つの時代が終わると趣味になるといいます。昔、狩猟採集や農耕は、それをしないと生きていけないから仕事でしたが、時代が進み、工業社会になると狩りや園芸という趣味になり、手工業は機械工業の世界でDIYという趣味になりました。

加藤 大変興味深いですね。

定藤 ええ。今いろんな技術革新で一人ひとりが仕事場に楽しみを見いだせる社会に変わりつつある。もしかしたら将来、デスクワークも趣味になるかもしれません。上村先生が話されたテントのある職場、ちょっとした遊びですよ。工業化と経済発展に伴い、欧米文化を取り入れた豊かな生活スタイルが阪神間モダニズムでした。今後は、イノベーションによって、遊びを取り入れたゆとりある仕事場と生活スタイルが確立され、その発展形が生まれてくるかもしれません。





専門家に
ご意見を伺いました

③次世代産業を核とした 地域振興プロジェクト



今木辰彦さん

多田電機 応用機工場
第一製造部ビーム開発課



山崎徹さん

兵庫県立大学副学長・
金属新素材研究センター長

いま世界中で開発競争が進む金属3D積層造形技術を磨き、瀬戸内臨海部に延びる「ひょうごメタルベルト」を、世界をリードする地域に再構築する目的で昨年4月、兵庫県立大学姫路工学キャンパスに金属新素材研究センターが開設されました。センター長で副学長と産学連携・研究推進機構長を兼務する山崎徹さんと、国内初の電子ビーム型金属3Dプリンタを開発して同センターに納めた多田電機（尼崎市）の若いエンジニア2人に話を聞きました。



鈴木康祐さん

多田電機 応用機工場
第一製造部ビーム計画課

ひょうごメタルベルトには、日本の重工業を担う大企業からそれに付随して加工、製品化を担う中小企業群まで約1600社が集結しています。山崎さんは「金属に関するすべてがエリア内です。このポテンシャルを活かすには、連携して次世代の新金属素材や高度な成型加工技術を開発すべきと考えました」と説明します。

センターの開設費用約4億円は国と県が地方創生推進交付金事業として半分ずつ負担。県立工業技術センターの姫路サテライトとして県内企業の共同利用も可能です。開設記念式典・セミナーを行った昨年7月から募集したコンソーシアム（上図参照）の会員は本年2月末現在で企業・団体含め104と順調にスタートしました。

センターには電子ビーム型とレーザービーム型、2つの金属3Dプリンタがあります。多田電機製の電子ビーム型は、真空内でチタン系合金などの金属粉に電子線を照射し、70ミクロンの成型を重ねて複雑な形の部品を短時間で作るもの。「技術力に、創造力の翼を。」をスローガンに掲げる同社は、従業員約320人の



電子ビーム型金属
3Dプリンタで成型
した試作品

4割以上が40歳以下というフレッシュな戦力が集まる会社。開発課の今木辰彦さん（33）は「自由度が高い装置なので知見を重ね、この分野でシェアNo.1を目指したい。メタルベルトでつながる企業群の存在を知り、力強く誇りに思います。成型に使われなかった金属粉を再利用できるのかなど、検証が必要な作業などを連携してできれば」と期待しています。顧客にサンプル加工を見せて販促に従事する計画課の鈴木康祐さん（24）は「結果次第で受注が決まる。他分野開拓を広げたい」と意欲的。

講習会やセミナー、試作品開発など、コンソーシアムの様々な仕掛けで企業同士のマッチングに注力する山崎さんは「精密加工技術は日本の得意分野。新しい金属3D積層造形技術を普及させる基盤は、モノづくりにある。中小企業も含め、その伝統を持つ企業に、センターで実際に金属3Dプリンタに触れ、何ができるかを知ってもらえば、メタルベルトの技術はさらに高度になっていくはず」と力強く話しました。



電子ビーム型金属3Dプリンタの前で説明する今木さん



▶さらに詳しく



播磨歴史回廊 プロジェクト



姫路、龍野など城下町の町並み、利神城などの中世の山城、室津や坂越などの港町が全国的にも知られる播磨には、隠れた地域資源がたくさんあります。安倍晴明らの陰陽師や宮本武蔵ゆかりの地、刀剣の材料で有名な穴栗鉄（千草鉄）、明珍火箸など……。美作から太子町、高砂市を結ぶ宮本武蔵生誕の地を巡るツアー、感状山城、城山城、置塩城、竹田城など赤松氏ゆかりの城巡りツアーは“歴女”たちの注目を集めそうです。また、醤油・酒などの発酵食文化や歴史を体験できるツアーとあわせて播磨の歴史と文化を味わえるツーリズムを推進します。



リゾート・産業・文化を活かす 「但馬ワークスペース・プロジェクト」

豊かな自然やスキー・温泉リゾート、芸術文化、食など多彩な地域資源を有する地域を舞台に、リモートワークやワーケーションモデル・プロジェクトを展開し、新たな事業創造に取り組む「但馬ワークスペース・プロジェクト」。出身地の豊岡で昨年、子育て中の女性たちが働く事業所を立ち上げた(株)ノヴィータ代表取締役会長の小田垣栄司さんに聞きました。

ノヴィータは東京に本社を構える、販促活動等を支援するデジタルマーケティングの会社です。社名はイタリア語で斬新。マーケティング支援事業を主とする傍ら、働き方についても注目。様々な女性の働き方をWEBサイトで発信したり、社員のリモートワーク体制を整えたりもしてきました。

なぜ豊岡で女性の働く場を？「女性も男性も自分らしく働けば本来、楽しいはず。場所にこだわらない働き方ができるリモートワークには大きな可能性がある。IT技術を使って東京や世界で当たり前になっている、自分にとっては普通の働き方を意識醸成された豊岡でやっただけ」。小田垣さんは、豊岡市による丁寧な意識改革を高く評価します。「数年前から女性のプライドを高めようと、駅前の子育て支援センターで、日本

中から優秀な講師を招いて意識を変えていかれた。そこに参加した女性たちが、うちの当初メンバーとして働き始めました。地元のパテンシャルを引き出そうと、具体的な動きを長期にわたって続けた自治体で事業をすると驚くほどスムーズに運びますよ」

豊岡拠点立ち上げ時は在宅勤務のみでしたが、子連れ出勤できる場があったほうが良いと幹線沿いで駐車場のある戸建ての平屋を事業所に。現在、6人が随時働いています。

来春開学予定の兵庫県立国際観光芸術専門職大学（仮称・認可申請中）に大きな期待を寄せています。「大学があることで新しいビジネスが生まれる。最高に高度なIT技術はコミュニケーション。学長予定者の平田オリザさんは、人間の動きをまねるロボットを作る時『その動きを0.2秒』など勘所を押さえたアドバイスで見事に実現させたそうです。演劇などの芸術は小手先のスキルでなく、研ぎ澄まされた人たちの高度な趣向に応える表現を生み、再現できないその瞬間を感じる最先端のITをひらく気がしています」



豊岡市内の事業所で働く女性たち（写真提供：ノヴィータ）

専門家に
ご意見を伺いました



小田垣栄司さん

(株)ノヴィータ
代表取締役会長



二地域居住・ 都市農村交流推進 プロジェクト

京阪神から1時間程度という都市近郊でありながら、日本の原風景ともいえる田園空間や全国ブランドの農産物、丹波焼・丹波布などの伝統工芸、篠山城・黒井城などの観光資源、丹波亀化石発掘をはじめとした学術資源など豊富なコンテンツを持つ丹波は、都市農村交流や二地域居住の場として魅力的です。

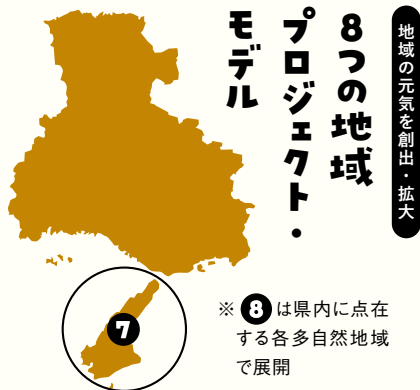
例えば、集落全体をホテルにしたスイスのコリッポ、分散型ホテルが点在するイタリアのアルベルゴ・ディフーゾのようなイメージです。

「泊まる」「体験する」「学ぶ」を柱に、様々な事業が展開できます。都市住民が「何度も訪れたくなる」地域を創ります。



▶さらに詳しく





8つの地域 プロジェクト・ モデル

地域の元気を創出・拡大

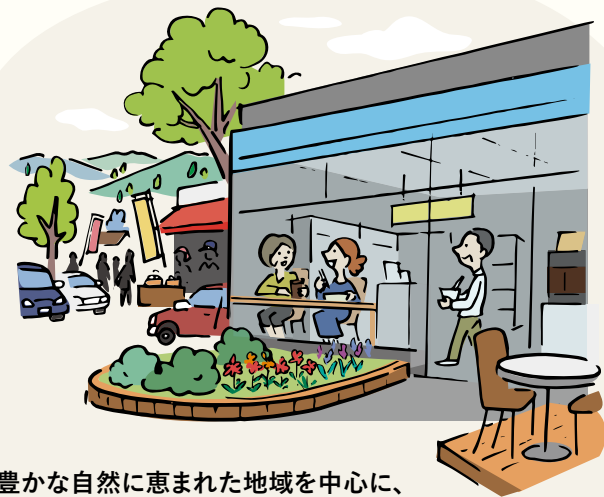
※ ⑧は県内に点在する各多自然地域で展開



令和の“御食国” プロジェクト

かつて御食国と呼ばれ、タマネギ、レタス、トラフグ、淡路牛、アカウニなど多彩な食材が手に入る食の宝庫・淡路島は、世界中から観光客が訪れる美食のまちサンセバスチャン（スペイン）のようなまちになれるかもしれません。

気軽にリゾート気分が味わえる観光地として日帰り客は増加傾向。ここで食と農をテーマに地域文化を育て、若者の就業・起業の支援や食材の新たなブランド化、島内資源を組み合わせた周遊・滞在型ツーリズムなどに取り組みます。関西国際空港や神戸空港からも近いことからインバウンドを促進し、島内を周遊できるようにします。



豊かな自然に恵まれた地域を中心に、県下の小規模集落は10年で倍増。こうした地域が「楽しく暮らせる場」であるための取り組みについて、県の地域創生戦略会議企画委員会の委員長で、住宅の建築設計や住民主体のまちづくりなどに携わる(有)スタヂオ・カタリスト代表取締役の松原永季さんに聞きました。

松原さんは2008（H20）年から県が進めてきた「地域再生大作戦」のアドバイザーも務め、これまで500回以上、県内各地の集落に足を運んできました。そこで聞いた住民に共通する声は「若者や子どもが減り、地域活動の担い手がない」というもの。松原さんは「若者が定住するには地域に根づいた産業の中に働く場をいかに確保するか。男性に比べてライフステージの変化が大きい女性が、その時々の変化に対応して働ける仕事を見つけやすくすることも大事」と話します。

地域に共通するもう一つの声が「気軽に集える地域の拠点がなくなった」。その悩みを解決する県内の先行事例の一つに、神河町長谷地区の村営「ふれあいマーケット」があります。日用品や食料を扱う店にガソリンスタンドを併設し、定期的に住民が喫茶やレストランを運営しています。

生きがいをうむ小さな地域経済サイクルを

松原さんは「地域の中で小さく回る経済サイクルが重要です。コミュニティの中心的な場の運営はボランティアでもいいですが、多少のお金のやりとりがあったほうが、お互い気兼ねなく取り組むことができます。お金そのものよりも商売のやりとりで派生する営みの中に生きがいを感じる人が多いでしょう」といいます。

参考になりそうなのが沖縄本島北部や離島の集落に今も50余り残る共同売店だそう。「人々のたまり場で、日常生活に必要な品を手に入れ、地元産品を売る。郵便を扱い、かつてはお金を貸したりもしたそうです」。昔、集落にあったよろず屋のイメージに近そうです。

また、県下に約100人いる地域おこし協力隊にも期待を寄せています。「彼らには地域内に不足しがちなデザイン、企画力、事務局機能、人をつなげる触媒的役割を担ってもらえたらいいなと思っています」。こうした若い力が集落再生の鍵となるはず。若い力が求められています。



松原永季さん
(有)スタヂオ・カタリスト
代表取締役

⑧多自然地域 一日生活圈維持 プロジェクト

専門家に
ご意見を伺いました



▶さらに詳しく

石川教授はラジオ関西の就活
応援番組「ネイビーズアフロの
レディGO! HYOGO」にも出演



就活前から

考えておいてほしいこと

Introduction Interview

やりたいことがわからない人は どんな生活をしたいかを考えよう

「こんな仕事がしたい」と明確な目標を持つ学生は就活にも迷いがありませんが、大半は「やりたいことが見つからない」学生たち。そんな時は、ただやみくもに自己分析するよりも、将来どんな生活を送りたいのか、といった「理想の生き方」から考えてみると仕事の選択肢が少しは見えてくるはず。あくまでも「仕事は生活の一部」であることを忘れずに。

2019 (R1) 年11月に兵庫県が県下35大学3967人の学生を対象に実施したアンケートでは、65.5%の学生が県内での就職を希望する一方、実際の県内就職者は2018 (H30) 年度で28.4%と3割を切っています。このギャップの要因は、大企業や本社機能が大都市に集中していることに加え、近年のインターネットに依存した就活によるものだと考えています。

就職活動を行っている、就活生には否が応でも大量の情報が舞い込んできます。情報が多いことは一見良さそうに見えますが、過剰な情報に振り回され混乱してしまう就活生も多いです。

次々と送られてくる情報は、そのほとんどが採用に高いコストを支払うことのできる大企業からのもの。そのネームバリューに惹かれ、「何となく」エントリーしてみても、結果はお祈りメール※が届くだけ。それほど意中の企業でもなかった

はずなのに「お祈りされる」回数が増えるにつれ人格を否定された気持ちになり、就活さえも諦めてしまう学生も少なくありません。本当にもったいないです。

厚生労働省の調査によると、大学の新卒生(2016 (H28) 年3月卒業者)の就職後3年以内の離職者は3割を超えています。仕事内容のミスマッチも離職理由の一つですが、自分の思い描いていた理想の日常生活とのギャップも大きな理由の一つです。例えば、満員電車での長時間通勤。職場でのストレスだけではなく日常生活から受けるストレスは、知らず知らずのうちに心身に大きな影響を及ぼします。自分の住み慣れたまちで就職することは、日常生活のストレスを軽減し、よりQOL(生活の質)の高い生活を送ることにつながるのではないのでしょうか。

就活で自分を成長させてくれる 新たなスタート地点を見つけよう

やりたいことがわからなくても、就職してから気づくこともたくさんあります。



石川路子さん

兵庫県の就活お役立ちサイト

「ひょうごで働こう! マッチングサイト」

スマホから、希望条件に応じた企業検索、スカウト通知受信ができます。また、東京圏からの移住者には最大100万円の移住支援金が支給されます。



[ios]



[android]

女子学生の就活応援ラジオ番組(ラジオ関西) 「ネイビーズアフロのレディGO! HYOGO」

県内企業で活躍している先輩女性社会人をゲストに迎え、就活アドバイスや仕事の魅力を本音で伝えます。



職場は、新たな自分を発見できる場所。仕事は自分の経験値を上げ、人生の目標を達成できるような人間へと成長させてくれます。どんな職場でも与えられた難問に「楽しみながら果敢に」取り組んだ後は、自分の可能性が広がっていることを必ず実感するはず。

まずは、自分の人生の目標について改めて考えた上で、そのスタートにふさわしい場所を積極的に探してみてください。きっと素晴らしい未来が待っていますから。

ゼミ生たちの就活を応援する
石川路子さん
(神戸市在住、甲南大学経済学部教授、地域連携センター参与)

おいしい絵文字で 世界をつなぐ

三宮の起業プラザにあるオフィスに、関西大学から台湾と中国の留学生がインターンシップに訪れていた



Case Study

アイデアを話すことで生まれる 人との縁が起業の推進力になる

「どの国の人が日本に来てても安心して食事ができる環境を作りたい」。菊池信孝さんが絵文字（ピクトグラム）による食材表示ツールと研修セミナーを提供する会社を立ち上げたのは、学生時代の失敗がきっかけでした。日本食を食べたい 사우ジアラビアの留学生3人を寿司や蕎麦の店に案内したけれど、イスラム教徒は豚肉や酒を使った料理は口にできません。何が入っているかわからないと断念され、ファストフードのフィッシュバーガーで残念な会になりました。

大学では紛争解決平和構築や途上国開発を専攻。身近にいた留学生を通じて言葉・制度・理解の3つの壁の存在に気づき、サークル活動をスタート。1歳年下の後輩、留学生に日本語を教えるひと回り年上の教師との3人で、宗教上の理由で皆と同じ給食が食べられない子がいる小学校でのゲスト授業、学園祭でイスラム教の方でも



パッケージ需要も増えてきた。赤い斜線を引くと「その原材料が含まれない」意味になる

食べることのできる、「ハラール」唐揚げ販売など約20のプロジェクトを試したそうです。フードピクトもその1つで、NPO法人EDGEが主催した学生・若者対象のソーシャルビジネスコンペで優勝。「コンペの期間中メンターについてくれたのがダイバーシティ研究所の田村太郎さんと大阪ボランティア協会の永井美佳さん。新卒時に『副業していいからうちに来い』と誘ってくれた広告代理店の役員とも出会えた」と言います。

多様な団体が集まる神戸は ビジネスにも子育てにもいい

1年余り会社に勤め、2010年横浜のAPEC首脳会議でフードピクトが採用されたのを機に大阪でNPO法人を立ち上げ独立。翌年にはアジア陸上競技選手権兵庫・神戸大会、第2ターミナルビル開業で海外のLCC就航が増えた関西国際空港でも採用され認知度アップ。独立後に経営を学んだのはNPO法人ISLの「社会イノベーター公志園」でした。

ひょうご産業活性化センターの勧めで応募した県の「クリエイティブ起業創出コンテスト」で採択され、17年1月に

兵庫県で本格的に事業展開。インバウンドの食事対応の1ツールとして食物アレルギーやベジタリアン、宗教上の理由で食べられないものがある顧客と、言語や文化の違いを超えたコミュニケーションを進めています。その年に経産省の「関西インバウンド大賞」特別賞を受賞。神戸を本拠地にしたのは「北野の神戸モスクコミュニティやユダヤ教の団体など、教えを請うべき多様な団体があることが第一。神戸出身の妻と結婚し子どもが生まれたこともあり、生活や子育てにもいいと考えたから」。いまフードピクトは国内100社1500店舗で常時使われ、週1回以上出張もするが「アクセスの良い神戸空港や新神戸駅から全国どこへでも行けるので便利」といいます。「オリンピックが決まって2015年から一気に競合も増えたが、世界に発信する好機なので英語、中国語、台湾語、インドネシア語のサイトを用意してSNSを利用した認知向上キャンペーンも行っています」

起業したい人へのアドバイスは「解決したい課題やアイデアに気づいたら言葉にして話してみること。一緒に取り組んでくれる仲間が見つかるかもしれないし、世代や分野の違う人から有益なアドバイスももらえるかもしれません」。

商標登録したフードピクトはNDCグラフィックス（横浜市）のデザイン



神戸で起業した大阪生まれの
菊池信孝さん
(神戸市在住、㈱フードピクト代表取締役)



会社での会議は明るい
笑い声が絶えないとか

女性が兵庫で

「働く」「暮らす」を応援

Case Study

管理職でも在宅勤務を活用 休日は家族でアウトドア

11歳になる双子の母、岡本麻紀子さんは、研究開発型外資系製薬企業、日本イーライリリー(株)の開発部門で部長として2つのチームを束ねています。子育てと仕事の両立において道を切り開いてきた彼女は、同社女性社員のロールモデル的存在。部下からは「岡本さんに相談しておけば大丈夫と思える。何事にも動じないで受け入れてくれる上司で、自信と度胸を与えてくれる存在。同じような経験をされているので、共働きの社員にも理解があり、仕事と育児を両立する上でのアドバイスをたくさんいただいている」「社内でのイメージは、ワクワクする新しいことを常に追求している人。イノベーションを推進する部署の長として、常に前向き。信念を持って進もうとする姿勢がすごい」と慕われています。

大阪で生まれ育ち、京都の大学の薬学部を卒業後、兵庫県内の製薬会社に入社。29歳の時、合併で本社が東京に移ることになったのを機に、日本イーライリリーに転職しました。

「東京は通勤ラッシュが大変そうだし、住宅環境も不十分に感じたので、関西にある会社を探しました。自宅の最寄り駅、甲子園から本社のある三宮までは電車通勤。本数も多く、混雑していないので非常に満足しています」

転職後は、糖尿病や精神疾患の領

域で新薬を創るための臨床開発を担当。36歳で出産した時、働く女性を増やしていくとする会社の方針で、子育て中の社員を対象に試験的に導入された在宅勤務制度を活用。今は週3日ほど自宅で仕事する生活を送っています。

後続の女性たちのためにも 柔軟な働き方を実践

親になってから薬の開発に対する考え方も変わったそうです。「実生活で病院に行ったり、薬に触れる機会も増えて『子どもにはこういう使い方の方がいいな』と母親目線、消費者目線でアイデアを探すようになりました」

管理職に就いたのは子どもたちが2歳になったころ。当時、子育て中の女性管理職はそれほど多くはありませんでした。「自宅でもオフィスでも、上司としての仕事ができることを後続の女性



会議にはスカイプを活用



家族と香美町のハチ北高原で

たちのためにも示したかった」と、周囲の協力を得ながら働き方を工夫し、在宅勤務を続けました。

岡本さんのように柔軟な働き方で成果を出してきた女性たちの積み重ねがあって、同社の多様な働き方のサポートは2018年にさらに拡大。在宅勤務取得の条件も日数も制限がなくなっています。

週末は家族と県内を飛び回ってアウトドアを満喫。「通勤も便利な所なのに、車で1時間ほどの距離に子どもたちと楽しめる自然がたくさんあって、最高の環境！ 近所には小児科や大きなショッピングモールがいくつもあるし、子育てで困ったことが思い浮かばない」と兵庫暮らしを満喫しています。

(2018年9月取材)

兵庫暮らしを満喫する
岡本麻紀子さん
(西宮市在住、日本イーライリリー(株)勤務)

外国人が兵庫で 「働く」「暮らす」は 当たり前



鼓ヶ滝に向かう滝道
沿いの「御所別荘」
のエントランスで

Case Study

その人がここにいる理由を 想像して受け入れてほしい

北アフリカ・モロッコから「情報知能工学を学びたい」と、金井良宮さんが留学生として日本にやって来たのは1999（H11）年でした。フランスのドキュメンタリーやニュースが伝える日本のイメージは、伝統がありながらスーツを着てパソコンを携えたビジネスマンが闊歩する洗練された国。来日前に「山ばかりの地震大国」と地理で学んだ日本が、石油などの貴重な資源もないのに世界経済をリードしているのも不思議だったそうです。

神戸大学のクラスメートに、のちに夫となる一篤さんがいて、1年生の夏、友人たちと一緒に有馬の夏祭りに誘われました。「それまでに京都の大きな祭りは見に行ったけど、小さな町は初めて。地元の人も宿泊客も一緒になって楽し

む祭りで、互いに言葉が通じなくてもコミュニケーションできて楽しかった」。温かいもてなしを受けて、ここが自分の場所でもあると自然に感じられたそうです。

夫の実家は有馬屈指の歴史を誇る1191年創業の「陶泉 御所坊」。良宮さんは2011（H23）年から老舗の一員として働き始めました。「有馬で仕事をして見えてきたことは細かい歴史。その中に代々ものが伝わる理由がありました。例えば阪神・淡路大震災で観光客の足が遠のいた時、有馬で初めて始めた日帰り温泉。危機を機会に変える発想で新しい仕組みを作り、回復させる力があると思う。だから今回の新型コロナウィルスの影響も心配はするが、永遠には続かない。きっと何とかなると樂觀的に思えます」と話します。

歴史と場所の魅力解きほぐし 有馬の文化の魅力を伝える

ブランドマネジャーの仕事は、歴史と場所の魅力を解きほぐして有馬の文化



ゆったりとしたぜいたくな空間が広がる離れ

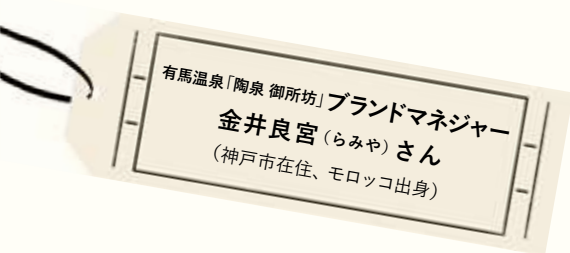


入社5年目フィリピン出身の澤田タイロンさんと打ち合わせ

を紹介することだそう。「自分一人の力でなく夫や仲間とも協力して、どう表現するか考えています」。いま注力しているのは、もとは寺や関西財閥の別荘だった場所にある「御所別荘」。国際的な温泉リゾート地にふさわしい全室離れサマーラーム付きスイート10室の宿でも、外国人スタッフが4人働いています。

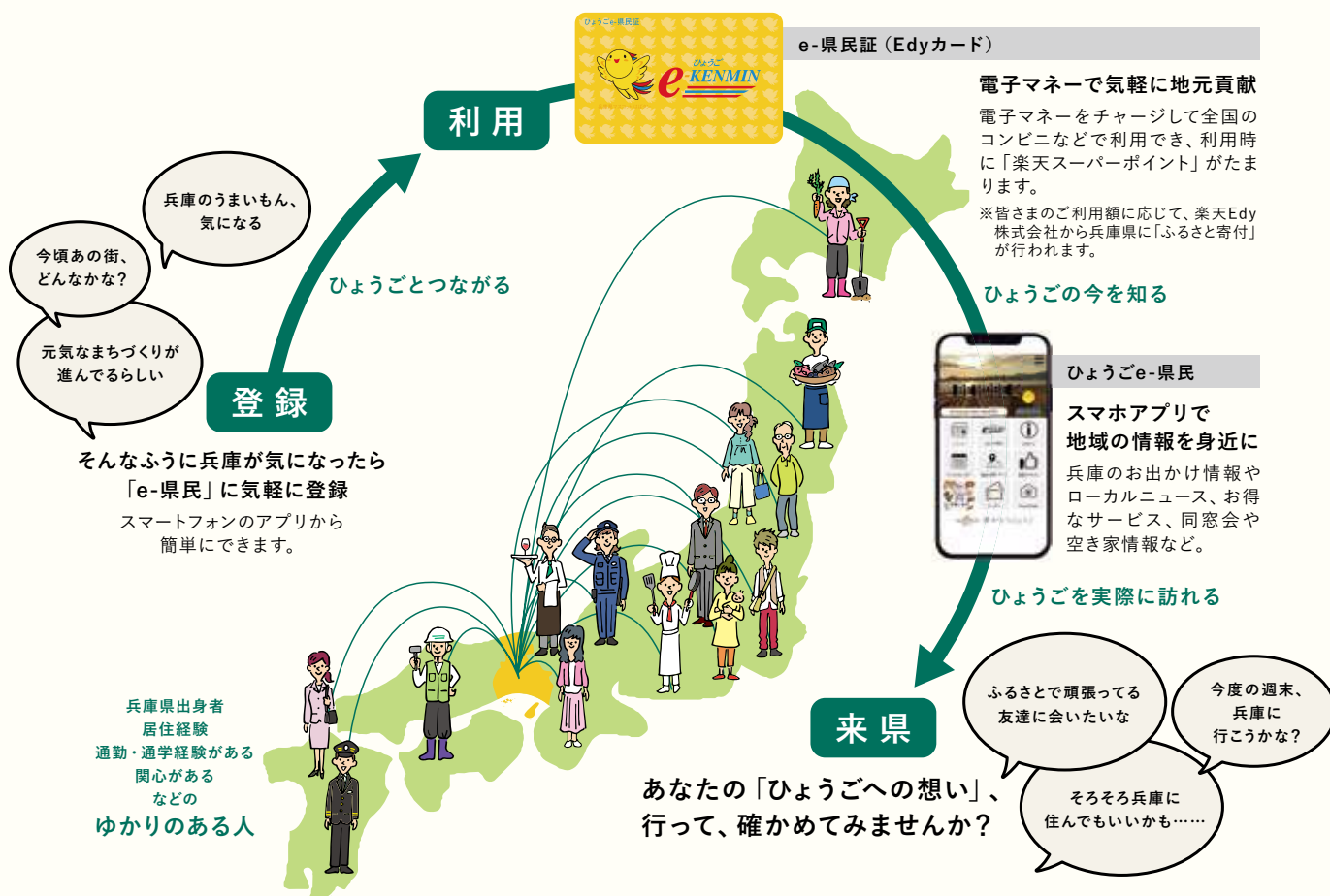
良宮さんは言います。「ある人がいろいろな理由でその国や地域に興味を持ち、国内外を移動していくのは当たり前のこと。だから、その人がなぜここにいるのか、その人の気持ちをわかった上で、地域のメンバーの一人として受け入れてほしい。私が留学生として国を出た時、モロッコの家族は帰ってくると思っていました。でも私は有馬にいます」

元々「いろいろな国へ行き、広く世界を見たい」と思っていた良宮さんは、小さな温泉町で世界の国から訪れる様々な人たちを待っています。



ひょうごへの想いをつなげる「ひょうごe-県民制度」

全国の都道府県で初めて、兵庫県にゆかりのある人たちの「ひょうごへの想い」を地域づくりにつなげようと2019年にスタートした「ひょうごe-県民制度」。スマートフォン向けアプリのリリースもあり、制度発足から1年で登録者は3万人を突破。出身者だけでなく、一時期を兵庫で暮らしていた人、兵庫に関心がある人など、離れていても「兵庫がちょっととなつかしい」「兵庫をちょっと知りたい」人たちの注目を集めています。



離れて暮らす人も、スマホアプリでふるさとの情報を身近に・便利に！



地域の旬な情報



ゆかりの地域の情報



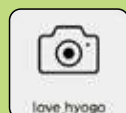
兵庫県のイベントや観光情報



オンラインで特産品を購入



来県時に協賛店で使えるお得なサービス



兵庫県公式地域創生インスタグラム

アプリのご利用にはひょうごe-県民制度へのご登録が必要になります。

ダウンロードはこちら
右記のQRコードを読み取ってください



[ios]



[android]



現役時代から過ごす兵庫県は私の第二の故郷です。

MBSラジオ「大畑大介のひょうご五国へLET'Sトライ!」を通じて、兵庫県の魅力を再発見するとともに、番組にゲストでいらっしゃる兵庫県ゆかりのアスリートの方々からお話を伺い、私自身とても刺激を受けています。これからもラグビーはもちろん、兵庫県の情報をどんどん発信していきたいです。

神戸製鋼コベルコスティーラーズ アンバサダー

大畑 大介



実は兵庫は古くから日本サッカーの中心地であり、日本サッカーの先進地域なんです。また兵庫には二つの豊かな海があり、良質な水を湛える山があり、自然豊かでありながら都会的で本当に住みやすい地域だと思います。地域によって特産品も様々ありますが、僕のオススメはやっぱり世界を魅了する神戸ビーフです。いつか日本に帰る日が来たら、故郷の兵庫に戻りたいですね

プロサッカー選手

岡崎 慎司

わたしたちも

兵庫を応援しています



message

兵庫県が生まれ故郷のあの人も

人生の途上で兵庫にゆかりができた人も

それぞれに兵庫を応援する

温かい気持ちを抱いています。

“未来への種”一緒に育てていきましょう。



安心する場所

自分が自分に戻れる場所

私は兵庫県淡路島の出身で、兵庫の中でも自然がたくさん溢れている場所で育ちました。

美味しい特産物があり、山や海もたくさんあり、人がとても温かい所です。大好きな故郷は私にとってかけがえない存在です。都心の方へ行けばショッピングができ、淡路島の方では素敵な温泉、そして日本最古の伊弉諾神宮など、兵庫県にしかないものがたくさんあります。私にとってはとても誇らしく、そして温かい場所だからこそ、いつ帰っても安心する場所です。

モデル、タレント、女優

朝比奈 彩

ひょうご地域創生通信 Vol.5

発行／兵庫県 地域創生局

〒650-8567

神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL: 078-341-7711

FAX: 078-362-3950